国語　問題用紙　No.1

受験番号（　　　　）

一　次の文章を読んで、問いに答えなさい。

中学校の上級か、高校の初年級の人たちからがおもなのですが、よくアンケートの葉書をもらいます。そして、幾つもの質問のひとつとして、

——①あなたは子供の時、どんな人になりたいと思っていましたか？　と問われることがあります。

そういう葉書を読むと、私はいつも四、五人の少年、少女たちが放課後の教室に頭を寄せ合って、クラブ活動の相談をしている様子を思い浮かべます。こうして質問を作ってから、かれらが話をしたり、あるいは黙って自分の胸のうちで、さらに考えてゆくことを思うのです。

たとえば、私が、自分はいまそうなっているような人間になりたかった、と返事をした、とします。かれらの何人かは、ああ、大人には②こういう自己満足をするタイプがいるんだな、と感じるだろう。あるいは、子供の時ねがったような人にはなれなかった、という返事には、気の毒なことだ、と考えるだろう、とか……

むしろ少年、少女たちは、回答を読む前に、もうそうしたことを想像しているのではないでしょうか？　それというのも、自分が発する質問に、どんな答えが返ってくるか、そのことをよく考えないで質問するのは——実際に質問した後で、答えてもらう前に答えを自分で考えてみないのは、といってもほぼ同じですが——あまり良いことではないからです。

さて私は、そうしたことをいろいろ考えるうち、結局アンケートに答えることをやめてしまうのですが、いつの場合も、まず次のように頭のなかで文章にしてみているように思います。

——私は子供の時、それを考えるたびにたいてい別の、自分がどんな人になりたいか、ということを考えました。戦争中の子供ですから、遊び仲間の誰もがそうであったように、ある時は、戦闘機の操縦士になりたい、と思ったものです。しかし、それは心の表面でのことで、その下の深いところでは、いや、自分は③そんな人にはなれないだろう、と打ち消していました。飛行兵になるのに必要なはずの、機敏な運動能力がないし、狭い操縦席で素早く事態を問題にまとめ、それを計算して敵の戦闘機と戦う、そのような頭の働かせ方は自分に向いていないだろう、と思ったからでした。

そしてこちらは、どういう仕事をする人という意味ではなくて、どういう心の持ち方の人、どういう態度の人ということになりますが、同じ頃の私には、ひとり具体的な人物が頭にあって、大人になれば——いや、いまからでも——あの人のようになりたい、あの人のように勇気のあることをする人になれたら、という思いがあったのです。

「尊敬する人」という課題の作文として、そのことを書いたこともあります。担任の先生がそれを皆の前で読んだために、④クラスの誰もが笑ったばかりか、上級の女子生徒がわざわざクラスの前の廊下に立って、こちらを指さしながら笑う、ということまで起こりました。そこで、私は返してもらった作文を破いてしまいました。また、もう二度とそれを話すこともしませんでした。⑤それでもずっとその人のことは忘れなかったし、いまも、私が胸をうたれた情景はクッキリと思い出すことができます。その人の名前の記憶ははっきりしないので——コーノさん、という人だった、という気はするのですが——まだ私が、当時の呼び方でいえば、国民学校三年より以前のことじゃなかったか、と他の記憶とのつながりで思います。

コーノさんは、もうずいぶん老人に見える人で、小学校でのいまの呼び名は用務員とか校務員とかだと思いますが、私たちは小使いさん、といっていました。英語の言い廻しで、pepper and salt、それもこしょうより塩が多いという、剛そうなごま塩の、短く刈った頭と無精髭が頬や顎にめだつ人。小柄で、黒い詰襟の服を着て、校庭の隅をいつも竹箒で掃いている、という印象でした。私のような低学年の生徒たちはみんな恐がっていたほど不機嫌で、先生方が話しかけてもあまり答えないような、不思議な人だったのを覚えています。そして私も学校に慣れてくると、その黒い詰襟が駅員の制服のように見える老人を気にかけなくなっていました。

そこに「山犬事件」が起こったのです。ヤマイヌという言葉は、もともとニホンオオカミをさすようですし、この日本産の小型オオカミはずっと以前に絶滅しているはずでした。したがって、本来のヤマイヌが村に現れたというのじゃなく、戦争が続くうちに食べ物が少なくなって、犬を飼う余裕のある家が少なくなったために、村を囲む山の斜面で野性に戻った暮らしをするようになった犬のことを、山犬と呼んでいたのです。そして大人も子供も、山犬を恐れていたのでした。

その山犬の、とくに大きい一頭が、ある日、昼休みの校庭に降りて来て、生徒たちを追いかけ廻したのです。幸いなことに誰も咬まれませんでしたが、泣き叫ぶ女子生徒の声が校庭にひびきわたりました。[A] なんとか生徒たちが教室に避難した後、誰もいなくなった校庭を大きい犬が走り廻るのを私たちは窓から見ていました。あれは狂犬病にかかっているかもしれない、という先生もいました。[B]

そのうち校庭のはずれの、水飲み場の脇の小屋に隠れていた、高等科の——村には中学校も女学校もなく、国民学校を卒業してから、なお勉強している生徒のことをそう呼んでいました——女子生徒三人ほどが、校舎の方へ逃げてくるのに山犬が気付きました。[C]

その時、コーノさんが、竹箒をかまえて、⑥もう一頭の黒い犬のように、そちらへ走っていったのです。そしてコーノさんは、吠えかかり咬みつこうとする山犬と闘い、とうとう校舎の間の通路から裏山へと撃退してしまったのでした。[D] それでも山犬の反撃を恐れて、先生方も生徒たちも教室に閉じこもったままで、コーノさんは泣きながらうずくまっている女子生徒たちから少し離れて、頭を垂れてじっと立っていました。

私はあのような人になりたい、とねがったのです。私は樹木のことを勉強して森林組合で働く計画を持っていましたが、そのなかには森で女子生徒を山犬から守る、という夢もふくまれていたのです。

いま私も、⑦こしょうより塩の多い頭になって——あの時のコーノさんより十歳は年長なのではないでしょうか——、こういうことを考えます。子供のころ、それもいろんな時期にそうねがったとして、あのような人になりたい、と心にきざんだモデルが、誰にも、幾人かはあるはずです。そして私は自分の生きてきた日々を検討してみて、まず、あの人のようになりたいとねがった誰についても、完全にその人のままにはなれなかった、と思います。しかしそれに続けて、あの人のようになりたいと思った、その人のように、少しずつなってはいるようだ、とも考えるのです。

そこで私は、子供の時に、その人の振る舞い方、態度について深く印象づけられるまま、あの人のようになりたい、と決心するのは、良いことだと思います。子供は子供なりに、人格、人となり、というふうにいってもいいのです。そして私は、自分の子供の時の人間の見方には、⑧人の内部にあるものについてかぎつけるものです。あれは間違っていた、と思うことも確かにありますが、それは、あの人はダメだ、という大人の言い方に影響されて、そう考えていたのを、いまになって恥ずかしさとともに取り消すのです。大人たちが、あの人はエライ、というのに引きずられてじゃなく、自分で心からそう思っていた場合、つねにそれは正しかった、ということができます。

（大江健三郎『「自分の木」の下で』）

問一　——線①「あなたは子供の時、どんな人になりたいと思っていましたか？」とありますが、子供のころの筆者は、「どんな人」をどのような意味でとらえていますか。二つ答えなさい。

問二　——線②「こういう自己満足」とはどういうことか、説明しなさい。

問三　——線③「そんな人」とはどんな人か、五十字以内で説明しなさい。

問四　——線④「クラスの誰もが笑ったばかりか、上級の女子生徒がわざわざクラスの前の廊下に立って、こちらを指さしながら笑う、ということまで起こりました」とありますが、笑ったのはなぜか、説明しなさい。

問五　——線⑤「それでもずっとその人のことは忘れなかったし、いまも、私が胸をうたれた情景はクッキリと思い出すことができます」とありますが、筆者は「その人」のどのようなところに「胸をうたれた」のか、説明しなさい。

問六　次の一文を入れるのに最もふさわしい場所を文中の[A]～[D]から選び、記号で答えなさい。

校舎全体から、悲鳴があがりました。

問七　——線⑥「もう一頭の黒い犬のように」は、何のどのような様子を表しているか、説明しなさい。

問八　——線⑦「こしょうより塩の多い頭」とはどのような「頭」か、説明しなさい。

問九　——線⑧「人の内部にあるものについてかぎつける」とはどういうことか、説明しなさい。

問十　本文中で筆者が述べていることと合っているものには〇を、まちがっているものには×を書きなさい。

1　アンケートに答えないのは、結局子供は自分のねがったような人にはなれないものだという返事を出すのが、少年少女たちに気の毒だからである。

2　大人になれば、子供の時の人間に対する見方がまちがっていたということに気づくが、まちがった見方をしたことにも十分意味はある。

3　「あのような人になりたい」と思うことは大切だが、人のまねをせずに、自分らしさを失わないことも必要だ。

4　「あのような人になりたい」と思い続けていると、完全にそうはなれないとしても、少しずつ近づいていくようだ。

5　子供のころ、大人の見方に引きずられて人をまちがって判断してしまったこともあるが、大人になった今は、それを恥ずかしく思う。

6　子供の時に、ある人の姿に心から感動したという体験が、「あのような人になりたい」という自分の目標につながった。

国語　問題用紙　No.2

受験番号

二　次の文章を読んで、問いに答えなさい。

ファーストフードは悪いのか。地球環境のことを考えれば、ファーストフードは、やはりよくない。いや、環境に悪いのに世の中に受け入れられ、売れに売れているのが問題、というのがよいかもしれない。ファーストフードは、A広[義]には外食である。食材を大量に仕入れ、経費を徹底的に削り、さまざまな料理を安く提供する。人びとはそれを買って、そこで食べる。あるいは職場に持ちこんでそこで昼食にする。

ファーストフードの何が悪いか。まず、安いこと。え？　安くて何が悪いのか、ですって？　考えてもごらんなさい。製品が安いということは、それを作る人の手間賃も材料も安いということだ。手間賃をぎりぎりと削ってゆくと、回りまわっていろいろな分野で人件費が下がってゆく。相対的に食品の値段には割高感が伴い、また値下げの圧力が加わる。要するに「マイナスの＊スパイラル」が働いて経済は縮小してゆく。安いということは、どこかに負担がかかっているということなのだ。①「安かろうは悪かろう」などということわざもかつてはあったが、それはこの意味でも、ことの本質をついている。

材料費が安くなる理由の一つは大量生産などによって生産の効率が上がったからだ。だが、工業製品と違って農作物や魚など生きた天然資源の場合、効率はそれほど大きく上がらない。とにかく食べ物は腐る。輸送にも冷蔵や冷凍など余分なエネルギーを要する。少なくとも以前はそうだった。食の営みについていうならば、作る側でも加工する側でも、効率化はそれほどのB[実]を上げてこなかった。

ところが「緑の革命」といわれる出来事以来、まず生産の事情が大きく変わった。緑の革命とは、化学肥料や農薬、多肥料に応じて収穫が増える品種、灌漑設備をはじめとする技術、の三つの改良が進み、農業生産の効率がぐんと上がった出来事をいう。一九六〇年代のことだった。さらにこのころから、冷蔵や冷凍、食品加工の技術が大きく進み、ものを腐らせず長い時間を運ぶことができるようになった。緑の革命で大量に生産された食材が、国内はむろん世界各地から運ばれてくるようになったのだ。また、製品を長時間保存したり遠くまで運ぶことも可能になった。食品が、工業製品と同じように規格化され、大量に安く作られるようになったのだ。人類が定住という生活のスタイルを覚えてからこの方、②限られた範囲でしか動いてこなかった食が、急に、国境を越えグローバルな動きをするようになったのである。

しかし反面、緑の革命や食のグローバル化は大きな問題を残すことになった。化学肥料をたくさん使えば土地や水を汚染する。さらに、肥料の一部は雑草にも回ってしまう。皮肉にも化学肥料をふんだんに使ったことで、雑草をも太らせてしまうのだ。化学肥料を吸った作物の身体はやわらかくなり、害虫や病気の攻撃を受けやすくなった。雑草、害虫や病原菌の駆除のため、さらに多くの農薬が使われた。さらに、これらの薬剤は生態系にも大きな影響を与えた。害虫も病原菌も、農薬に対抗するためにコロコロとその姿を変え、新たに開発された薬に抵抗性を持つものがすぐに登場する。つまり、せっかく巨額の投資をして農薬を開発しても、数年もすれば効かなくなってしまう。そしてその都度、人間社会は新たな薬剤を開発することを＊余儀なくされてきた。③コンピュータウイルスと免疫ソフトとのいたちごっこの元祖のような構図がそこにはある。

安い農産物を求めて、ファーストフードをはじめ日本の業界の＊ディーラーたちが世界を飛び回る。価格競争が[1]化するにつれ、より安いものが求められる。より人件費の安い土地でより効率よく農産物を生産しようという努力が続く。今のところ、現代社会が作り上げた農業のこのシステムは、表面上は大きなほころびをみせていない。

しかしこうした技術がどれも大量のエネルギーを使い農地を使い捨てにすることで成り立つ技術であることに、どれほどの人が気づいているだろうか。もし、運搬のための石油も＊無尽蔵で、また農地も無尽蔵というなら、この路線のままいくのも悪くない。そういう選択肢があってもいいだろう。だが現実に、石油も農地も、[2]限なのだ。

少し理屈っぽい話になるが、エネルギーa消費についていえばこの一万年の人類の歴史の中で、最近のわずか二〇〇年ほどがきわめて特殊な時代であった。それもこれも石油のおかげではある。だが、石油はほどなく枯渇する。いや、枯渇しなくとも、掘るに要する単価が上がったり、誰かが投機で値を吊り上げたり、戦争が起きたりして石油の値段が高騰する事態は、常に考えに入れておかねばならない。

長い目でみれば、農業、それも肥料や水を[3]量に使う農業、もっといえば資材をよそから持ちこむ農業は、やがていろいろな理由で破綻し、後には[4]毛の土地を残してきた。今、ユーラシアの内陸に広がる広大な砂漠の少なくとも一部は、人間がでたらめな使い方をした結果使えなくなり放棄されてきた歴史を持つ。このことをみれば、④今のような農業のやり方が少しも「持続可能」ではないことが誰にもわかるだろう。

食の加工についてもまったく同じである。加工には、冷蔵、冷凍、真空パックなどを要する。しかしそれらはすべて⑤石油あってのものである。電気を使えばよいといわれるかもしれないが、その電気は、二〇一一年三月の東日本大震災に伴う原子力発電所の事故以降、供給に黄信号がともっている。石油の高騰は、食の加工を危機の淵においやるだろう。

さて、これまでに書いた問題は中食や外食にもある程度はあてはまることであったが、食文化を世界レベルでb画一的にしかねないところがファーストフードの最大の問題と思われる。食文化の画一化は、ファーストフードの場合、より特徴的である。今や文字通りグローバルに展開したファーストフードの店では、世界のどこでも同じメニューが出され、人びとはその同じ食品を食べる。その限られた特定の食材だけが大量に生産される。中食、外食がもたらした問題が、より鮮明に出てくるばかりか、その土地にあった固有の食文化が壊されてゆく。

「食文化の破壊をいうのは単なる＊ノスタルジー。世代が変わればそんなこと誰もいわなくなる」。そういう極端な意見もある。だが、ノスタルジーの何が悪いのか。今、地方を旅していて突き当たる深刻な問題の一つは、⑥ちゃんと食べることができにくくなっていることだ。どこの駅前でも、かつての飲食街はシャッターが降り人の気配もまばらだ。開いている店はチェーン店かファーストフードの店。極端にいうと、どこの町も同じ顔つきをしているのだ。その土地のものを食べようと思えば、わずかに残った老舗か、または高級旅館にでもいくしかないが、今度はべらぼうに高い。そこそこの値段でその土地ならではのものを食べるという楽しみが、どんどん奪われつつある。アメリカと似てきたなあ。アメリカは、地方でも都市部でも、どこへいっても、似たような店が、似たような食べ物を出している。極端な言い方をすると、「コーラとハンバーガー」に集約されてしまっている。こうした食は、多様性を守る立場とは、まったく相入れない。

もう一つ、現代の私たちは、昔の人びとに比べ、食べるために頭も身体も使わない生活をしている。頭と身体を使ってやっていた労働の代わりを、石油などがしている。現代日本の食が環境に負荷を与えているとは、こういうことをいうのだ。繰り返しいおう。食の手抜きは、エネルギーの浪費そのものなのであり、ファーストフードばかりの食生活はその代表なのである。

（佐藤洋一郎『食を考える』）

【注】
- ＊スパイラル　らせん。うず巻き。
- ＊余儀なく　仕方なく。
- ＊ディーラー　販売業者。
- ＊無尽蔵　いくら取ってもつきないこと。
- ＊ノスタルジー　過ぎ去った昔をなつかしむ気持ち。

問一　――線A「広[義]」の「義」・B「[実]を上げてこなかった」の「実」について、それぞれの漢字の意味をア～エから選び、記号で答えなさい。

A [義]〔ア 理解　イ 意味　ウ 範囲　エ 分類〕

B [実]〔ア 手柄　イ 名声　ウ 利益　エ 成果〕

問二　――線①『安かろうは悪かろう』などということわざもかつてはあったが、それはこの意味でも、ことの本質をついている」について、このことわざの (1) 本来の意味と、(2) ここで使っている意味を、次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

（このことわざは、「安かろう悪かろう」とも言います。）

ア　安ければ品質が悪くてもよい。
イ　安いものは品質が悪いだろう。
ウ　安いものが品質が悪いとは限らない。
エ　ものが安いことは、悪いことにつながる。
オ　ものが安いと、作った人に悪い気がする。

問三　――線②「限られた範囲でしか動いてこなかった食」とありますが、「食」が「限られた範囲でしか動いてこなかった」のはなぜか、説明しなさい。

問四　――線③「コンピュータウイルスと免疫ソフトとのいたちごっこ」とはどのようなことか、説明しなさい。

問五　[1]～[4]にふさわしい漢字を次のア～クから選び、記号で答えなさい。

ア 有　イ 無　ウ 不　エ 未
オ 激　カ 増　キ 多　ク 少

問六　――線a「消費」・b「画一」の反対の意味で使われていることばを文中から漢字二字で探して答えなさい。

問七　――線④「今のような農業のやり方が少しも『持続可能』ではない」とありますが、ここでいう「今のような農業のやり方」とはどういうやり方ですか。「やり方」という語に続くように、文中から二十一字で抜き出しなさい。

問八　――線⑤「石油あってのものである」をわかりやすい表現に書きかえなさい。

問九　――線⑥「ちゃんと食べることができにくくなっている」について、どのようなことか説明しなさい。

問十　筆者はこの文章で「ファーストフードは、やはりよくない」と言っていますが、あなたはどう思いますか。百字以内で述べなさい。

三　の問題は解答用紙にあります。

平成二十六年度　国語　解答用紙

受験番号

一

問一　という意味　という意味

問二

問三 50

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十　1　2　3　4　5　6

二

問一　A　B

問二　(1)　(2)

問三

問四

問五　1　2　3　4

問六　a　b

問七　21 やり方。

問八

問九

問十　50　100

三の問題と解答らんは裏にあります。

三 次の各文中の空らんには、同音で異なる漢字が入ります。【例】にならって、それぞれふさわしい漢字を書きなさい。

【例】
- **栄**養のある食事をとる。
- 話題の**映**画をみる。

(1)
- この問題は□単に解ける。
- 病人を手あつく□護する。

(2)
- 開会を□言する。
- 研究に□念する。

(3)
- 復□を後押しする。
- 親□行に努める。

(4)
- 高□な身分の女性。
- 年□の入った職人のわざ。

(5)
- 彼の考えは独□的だ。
- 舞台でピアノを独□する。

(6)
- 乱□な言葉づかいをたしなめる。
- 国外へ□命する。

(7)
- □願の金メダルをとる。
- エジプトの□宝が公開された。

(8)
- □道からの声援（えん）にこたえる。
- 口うるさい上司は敬□される。

(9)
- 有□の美をかざる。
- 多くの民□に支持される。

平成二十六年度　国語